



**昔からの知り合いのような  
そんな気がしてくる出会い**

日本一周の旅を振り返って、「好きだから走り続けられた」と思います。野宿などをして、節約を続けながらの日本一周の旅は、苦労したことも多かったですが、何より行く先々での人との出会いが、今では一番楽しかった旅の思い出になっているのです。

北海道で出会ったリアカーで日本一周の旅をしている人には、行く先で三回も偶然に出会って、たまたま宿も一緒のところだったので、旅の話で意気投合したこともありました。サロマ湖で知り合った福岡県から旅をしに来ていた人とは、その後、福岡の自宅に泊めていたとき、愛媛県の今治市のしまなみ海道の無人島「見近島」で出会った人たちとは一緒に泳いだり、雑談したりしたことも。翌日、その一人の会社の事務所に

泊めていただきました。能登半島で出会った一人暮らしの100歳のおじいちゃんには、「朝めし食うか」と声を掛けられ、ご飯をごちそうになったり、岩手県では「ホヤ食へんか」とコンビニで、たまたま声を掛けてきた人にホヤをごちそうになったり、親切にしてもらったこともたびたびありました。

人の温かさや出会う、そんな旅でもあったように思えます。それに、旅先で出会った人たちとは、不思議と昔からの知り合いのような気がしてくるんです。特に印象に残っている人とは、もう一度会ってみたいですね。

今後の目標は、もう一度北海道を巡ること。もっとゆっくりに時間をかけて。それから、70歳になったら、また日本一周にチャレンジしたいです。もちろん自転車です。



出迎える人たちが集まる中、日本一周達成のゴールの瞬間、シンボルタワー周辺は歓喜の渦にまつまれた

## 檜尾利晴さん自転車で日本一周達成！

日本一周への挑戦！自転車で11,510 kmを駆け抜ける

平成22年4月29日に出発した、自転車で日本一周にチャレンジしていた檜尾利晴さん（前原・4区）が同年11月28日、出発地点でもあるシンボルタワーでゴール、見事日本一周を達成しました。シンボルタワー周辺には家族や仲間たち、その他多くの人たちが檜尾さんを出迎え祝福しました。



檜尾利晴さん（前原・4区）  
Toshihiro Yoshitani

とちおとしはる / 1948年生まれ。三重県出身。会社を定年退職後の2010年に自転車による単独日本一周に挑戦、見事成功する。214日間で総走行距離11,510キロメートルを走破した。自転車のほかにも、上州邑楽七福神を愛する会や太田竹工芸愛好会などに所属し、その活動範囲を広げている。趣味は、キャンプなど。

**自然豊かな風を感じながら自転車のペダルを踏んだ旅**

マウンテンバイクを購入したのをきっかけに、車に積んでツーリングへ出掛けるほど自転車が好きになっていました。56歳のとき、自転車で生まれ故郷の三重県に住む姉を訪ねてみようと思いい立ち、姉の住んでいる鈴鹿市へ。

邑楽町から鈴鹿市は片道約600キロメートル、6日間の旅でした。初めての長距離走行で、とても大変でしたが、この経験で「日本一周は可能だ」と確信できました。それからの日々は、暇をみつければ、ツーリングの本などを読み、日本一周の夢をふくらませていたんです。

会社を定年になったら、旅に行こうと少しづつ準備を進めていました。今から一年半前のことになりました。計画を打ち明けたとき、仲間たちは、びっくりしていましたが、家族の反対は不思議とありませんでした。計画したルートは、主に海岸沿いを走行するというもの。野宿をしたり、ライダーハウスなどで宿を求めたりしながら、関東を抜け北海道、そ



ライダーハウス / オートバイ、自転車などで旅行している人たちを対象にした宿泊施設。北海道などに多く点している



1 4月29日、仲間たちに見送られシンボルタワーを出発。一路、北海道を目指す 2 今でも印象に残るのは北海道の大自然。ビュースポットがとて多かった 3 野宿をする場所はとても重要。とにかく飲み水のある場所を探して野宿した 4 日本一周の旅では基本的に自炊をして節約した。食材も現地で調達。時にはいただくことも 5 北海道で出会ったリアカーで旅する人。この後偶然三回も出会い宿も一緒のところだったので、旅の話で意気投合した 6 北海道で出会った青年。彼は大学生で日本縦断の旅をしていた 7 鹿児島県の新燃岳。この後にまさか噴火するとはこの時想像もできなかった

**214日間の旅で得たもの  
それは、旅先で出会った人たちとの思い出。**

（日本一周旅の写真 / 檜尾利晴さん提供）